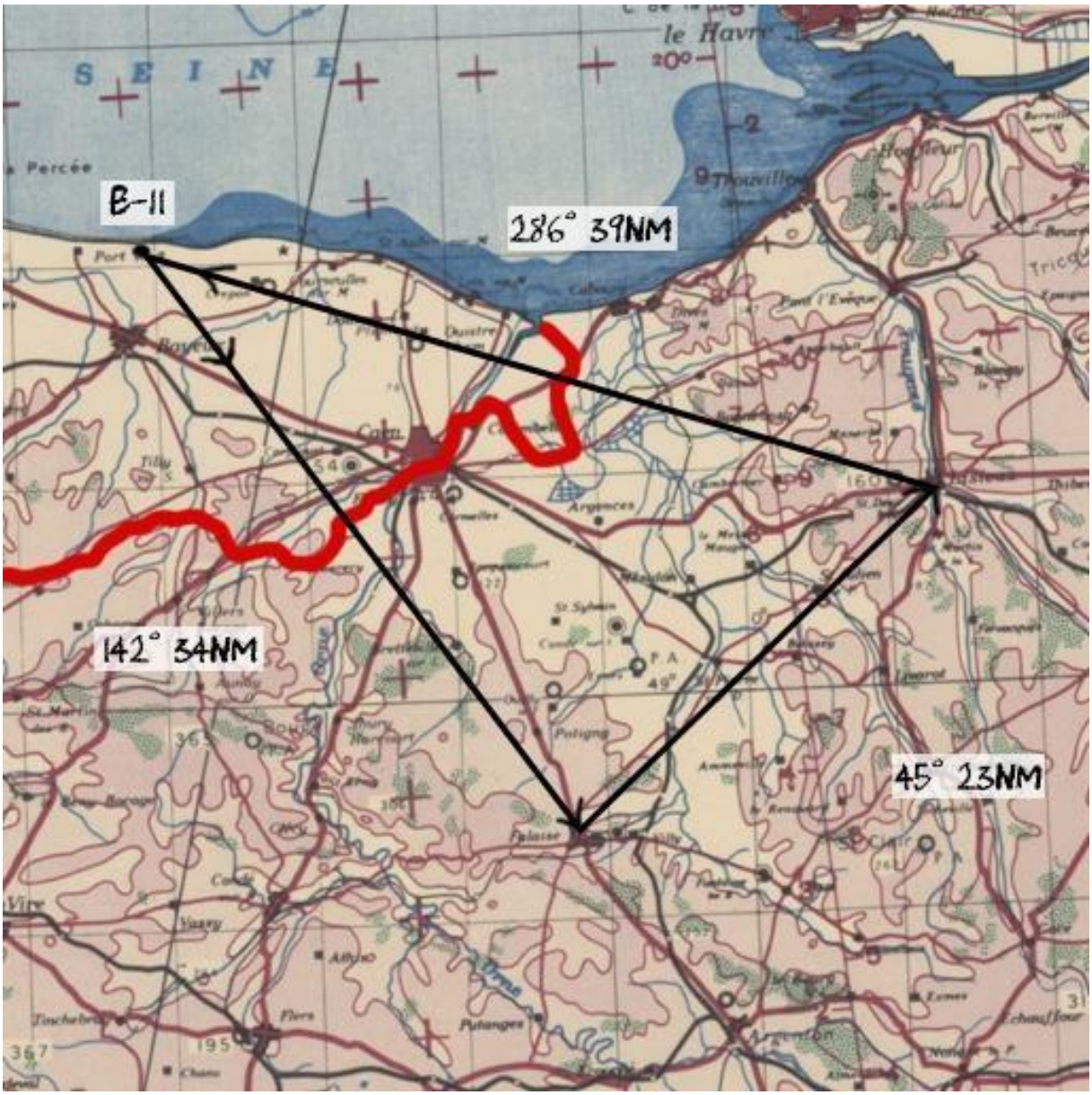
ブリーフィング

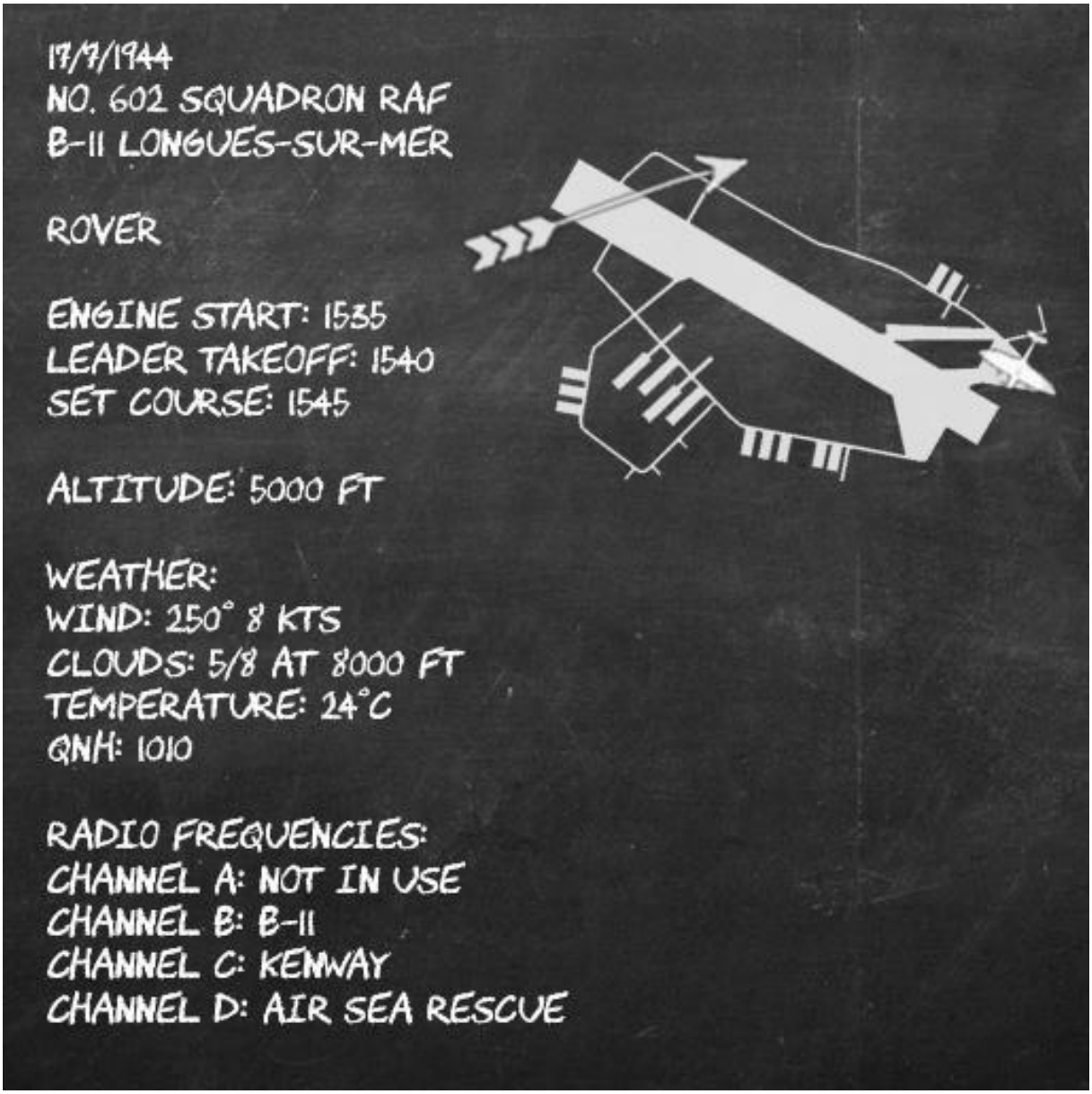
'Afternoon chaps,

第 602 飛行中隊はファレーズとリジューの間で低空偵察飛行を行うよう要請された。レッド編隊は 1540 時にピエールを先頭に 4 機のスピットで離陸し、ブルー編隊をさらに 2 機を追加する予定である。飛行隊は飛行場の上空で隊列を組み、1545 時にコースを取る。前線上とカーン上空で激しい対空砲火が報告されているので、友軍領域上空で 1 万フィートまで上昇し、浅く降下して高速で通過することが推奨される。あとは敵の対空砲の活動に応じて、低空で任務を遂行すること。高度 5,000 フィートを推奨する。ミッションの間はチャンネル C でケンウェイが我々に情報を提供してくれる。幸運を祈る。



作戦詳細

このミッションは「ロンメル（Rommel）」の章に書かれている出来事を再現したものです。クロステルマンはこの作戦に参加していませんが、注目すべき出来事なのでキャンペーンに含めることにしました。あなたはピエール・クロステルマンとなって、マックス・レッド・リーダーとして第 602 飛行中隊の 6 機のスピットファイアを率いて飛行します。エンジン始動後、チャンネル B で管制塔に連絡し、滑走路 30 に移動します。レッド編隊は 1540 時に離陸し、ブルー編隊がそれに続きます。離陸後、チャンネル C に切り替え、飛行場を一周して編隊がフォーメーションを組むのを待ってください。1545 時にパトロール・エリアへ向けて出発します。他のフライトとは F10 ラジオ・メニューで交信できます。



背　景

エルヴィン・ロンメルは、一時期、ヒトラーのお気に入りの将軍でした。1940 年にフランスの防衛線を破壊した装甲師団の司令官として注目を集めたロンメルは、その後アフリカ軍団を指揮し、そこでも戦術的才能と部隊を鼓舞する能力、限られた資源を最大限に活用して活躍したため、ヒトラーは彼を元帥に昇格させました。

1943 年初頭、ロンメルはドイツの勝利を疑うとともに、ヒトラーに対する評価も低下していました。ドイツ本土に戻ったロンメルは、連合軍による空襲の惨状と国民の士気の低下に愕然としました。また、絶滅収容所、奴隷労働、ユダヤ人の抹殺など、ナチス政権の残虐行為を初めて知ることになりました。ドイツの勝利という大義はもはや無く、戦争を長引かせることは祖国を荒廃させるだけであると確信するようになったのです。そして、ヒトラーを追放し、西側連合国との単独講和を確立しようとする陰謀のメンバーと接触するようになりました。

7 月中旬には、ドイツ軍の戦線は崩壊していました。1944 年 7 月 17 日、ロンメルは第 1SS 機甲軍団本部を訪問した帰りの事です。広く受け入れられている説によると、RCAF 第 412 飛行中隊のチャーリー・フォックスが操縦するスピットファイアがサント・フォイ・ド・モンゴメリー付近で彼のスタッフ・カーを空襲しました。運転手は速度を上げ、大通りに出ようとしましたが、20 ミリ弾が彼の左腕を砕いたため、車は道路から逸脱し、木に激突しました。ロンメルは車から投げ出され、ガラスの破片で顔面左側を負傷、頭蓋骨を 3 ヵ所骨折し、（ほぼ確実に死亡すると思われる）大きな傷を頭部に負い入院しました。

その 3 日後、東プロイセンの大本営で戦略会議中のヒトラーが、暗殺者の爆弾で危うく命を落とすところでした。この時、ロンメルが犯人だと疑われました。ロンメルがヒトラー暗殺計画に関与していたかどうかは定かではありませんが、彼の「敗北主義」的な態度はヒトラーの怒りを買うには十分でした。ヒトラーとしては、ドイツで最も人気のある将軍を、自分の命令で殺すことをドイツ国民に知られることは避けたかったため、ロンメルを自殺に追い込み、その死は戦傷のためであると発表したのです。(Wiki)